

非行防止ネットワーク事業

学校・家庭・地域住民・営業者等がネットワークを築き、児童生徒の規範意識・地域の健全育成機能を高め、安全で安心な環境づくりに取り組んでいくものです。現在8地区で実施中です。

～ いま 子ども達とともに ～

少・中・高校生を持つ親として

「家庭」は、心の支えとなる家族が住む大切な居場所です。
子どもは、愛情に包まれた家庭で、心の栄養をたっぷり受け取りながら、基本的な生活習慣や生きる力を身につけます。
そして、思いやり深く、自分で考え、行動できる人間に成長していきます。



豊かな人間性を持つ

美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
正義感や公正さを重んじる心
生命を大切にし、人権を尊重する心など基本的な倫理観
他人を思いやる心や社会貢献の精神
自立心、自己抑制力、責任感
他者との共生や異質なものへの寛容な心

子ども達を育みましょう

わかりますか 若者ことば

パニくる：頭がパニックになる

パクる：ナンパする

タクる：タクシーに乗る

コクる：告白する

ファミる：ファミリーレストランに行く

ブッチする：さぼる、約束などを破る

チャーる：喫茶店に行く

ブルー：気分がさえないこと

へこむ：ちょっと落ち込む

さむい：しらける

鼻ピ：鼻ピアス

目点(めてん)：びっくりする

いい感じ：かっこいい、ナウい

はみパン：ズボンを下げてはき、トランクスがのぞくようにすること

イタ電：いたずら電話

イタメー：いたずらメール

家電：自宅の固定電話

ちゃっきょ：着信拒否

TDL：東京ディズニーランド

ちゃくぎり：携帯電話がなくてもすぐ切ってしまうこと

久プリ：そのメンバーで、久しぶりにプリクラを撮ること

初プリ：そのメンバーで初めてプリクラを撮ること

はずい：恥ずかしいこと

サクサクいく：テンポよく仕事などを進めること

まったりする：くつろぐ、ゆっくりする

ぱつきん：金髪

はでかわ：派手でかわいい

げんちゃ：原動機付き自転車

子ども達は、言葉を色々な形にアレンジして使います。最近の代表的な若者言葉をあげてみました。

知っている言葉は、幾つありますか？

これらの言葉には、携帯電話やインターネットの影響を強く受けた言葉や、長い言葉を短かく省略した言葉、前後を逆にした言葉などが多く、軽いリズムや音の感じで使っていることがわかります。



あやまちを ただす勇気が 親の愛 (青少年国民会議)

子ども達の姿

子ども達の多くは、健やかに成長し、健康的な生活をしています。しかし、情報化の波が、大人はもちろん子ども達をも巻き込み、便利で快適な暮らしが当たり前のこととして享受されるようになりました。子ども達は、感性豊かで流行に敏感ですが、一方で、コミュニケーション能力が高いとは言えず、自己中心的で一番大切なのは自分自身だといった傾向があります。また、苦しいことを乗り越えることが苦手でもあります。現代のように、ボタン一つで情報が瞬時に手に入る便利な社会で生活していれば、多かれ少なかれ、誰でも同じような傾向があると言えます。

現代の子ども達は、昔とは全く違う環境で生活しているのです。また、最近、子どもの体温が低くなる一方で子どもの脳内の温度が上がっていると言われています。脳内温度が上がると、睡眠障害になったり、キレやすくなるそうです。このような状況を踏まえて、子ども達の生活環境を守するためにはどうしたらいいか、皆で考え協力していくことが大切です。



大人達の姿

では、大人達はどうかでしょうか？子どもを導く立場にある大人や親にも見直すべき点はたくさんあります。

たとえば、万引きについて考えてみると、万引きを犯罪だと認識していない大人がいるという驚くような事例もあります。子どもが万引きをしてつかまった時、親はどうしたらいいでしょう。子どもの見ている前で「おいくらですか？」と言って財布を出し、謝りもしない親がいるというのですが、信じられますか？子どもは、親の態度を見て、お金を払えば、謝らなくてもいいということを体験してしまいます。子どもが失敗した時、一緒に謝ってあげられる親でありたいものです。

その他にも、ゴミのポイ捨てや煙草の投げ捨てなど、子どもが見ているにもかかわらず、恥ずかしい行いをしている大人も少なくありません。子どもを愛さない親はこの世にはいませんが、愛し方は様々です。大人や親は、子どもに愛情を示し伝えるためにどうしたらいいか工夫することが大切です。



子ども達を取り巻く環境

子ども達の強い関心を集めている携帯電話やインターネットは、ますます進化し、出会い系サイトに関係して子ども達が被害者になる事例が急増しました。平成15年6月に出会い系サイト規制法が成立した後も、インターネット上の出会い系サイトを通じて、子ども達が被害を受ける事例は依然として高水準にあります。平成16年6月に長崎県佐世保で女子児童による同級生殺傷事件が発生し、子ども達が大人の予想以上にインターネットやチャット等に深く関わっていることがわかってきました。また、ビデオや雑誌などからも残虐な暴力シーンや過激な性描写を含む有害情報を簡単に手に入れることができます。

インターネットや出会い系サイトなど匿名性の高い情報伝達手段と携帯電話など親の目が届きにくい通信手段が急速に普及した結果、子ども達自身が加害者にも被害者にもなる危険性を有する事態になっています。自分のことは自分で守る強い心と誘惑に負けない意志を育てましょう。



見直してみませんか 大切な家族のことを

親として

親の心の余裕が子どもをのびのび育てる

親はまず自分が幸せをつかみ、人生をエンジョイすること。充実する人生を生きることが、子どもへの最大の環境作りとなります。

夫婦間で会話を

子どもに勉強を無理強いするより夫婦間の会話を増やし、子どもが耳を傾ける時間を増やす方が勉強になります。結婚は二つの文化のぶつかり合いだから、二つの文化が互いに認め合って交わされる会話は、子どもにとっても大きな刺激になります。夫婦互いの悪口を言うことは、子どもを傷付けるだけです。

今の幸福への感謝を忘れない

親が、「自分は運がいい」と自分のおかれた環境に感謝できれば、子どもはのびのび成長します。日々安全・健康に過ごせたことの感謝の念を忘れないことは、プラス思考につながります。「運命は性格である。」(アリストテレス)というように、幸福を運び込むのも本人の性格次第。物質的ではなく、精神的な満足幸福として子に語りましょう。

父親の役目の重要さ

男の子の子育てでは、自我の芽生える小学校高学年以降、精神面でのケアが重要となります。情報の波にのまれぬよう、それがどのような影響を及ぼすかを考慮して、体験に裏付けられた真に必要な情報を選別し与えていきましょう。

子どもの育て方

子どもに感動を語り、感動体験を与える

子どもには、人の悪口、不平ではなく人間の素晴らしさを語りましょう。親の感動を繰り返し聞かせることで、プラス思考の子どもになっていきます。感動の対象の前に放り出すだけでなく、その素晴らしさを手ほどきすることも大切です。

好きこそものの上手なれ

音楽にしても本にしても「子どもには難しい」と親が判断せず、興味を示したものは与え、根気強く説明しましょう。一つでも秀でたものを持った子どもは、すべてに自信を持って、より成長するようになります。

自分でやらせる

自分でできることは自分でやる癖をつけましょう。時間が掛かっても自分の頭で考え、自分なりの方法を見つけることが大事です。親は過剰反応しないで見守ることが大切です。

スキンシップを大切に

子どもの情緒安定には、スキンシップが一番です。幼稚園に行っている、帰ってきたら抱きしめてあげる。小学生でも肩を組んで歩くくらいのことはしてもいいのではないのでしょうか。

子どもの言葉は極力一生懸命聞く

子どもの言葉を一生懸命聞くことが親にできる最大の「語りかけ」とも言えます。親は子どもだった頃の自分を思い出して、子どもの場所まで降りていくことが必要です。そうすることで、親も現在の自分の

視線と子どもの視線を同時に感じる事が出来、自分を再構築することができ、世を複眼で見る目を養うこととなります。

✚ 育て方一つで運動神経・器用さは大きく発達する



とにかく体を動かすことが大事です。歩かせ、仕事を手伝わせる。疲れればよく眠る。体の発達は、神経の発達にも大きく影響します。鉛筆、クレヨンを持つ時期は早いに越したことはありません。自由に描かせましょう。おもちゃは、見て楽しむものより、自分で作ってみるもの、触って楽しめるものです。

✚ 幼児のおかれる音環境の影響力を意識する



よい音楽は、精神・頭脳を飛躍的に発達させます。子どもが気に入った曲は繰り返し聞かせてあげましょう。音楽に囲まれて育つと集中力のある子どもになると言われています。集中力は問題解決能力を高め、すべてのことに応用がきき、将来差がつきます。

✚ 気をつけること

✚ 「ダメ」を教える場合には必ず理由を説明する



子どもは理屈の通らない嘘は直感的に見抜きます。親の干渉は幼稚園前は重点的に繰り返し優しく厳しくしつけましょう。幼稚園以降は過度に干渉することは避けましょう（自分で考える力を育てる意識で）。子どもの言い分を聞かずに「どうしてそんなことをしたのか。」と問いつめたり叱りつけることは、悪気のない子どもを深く傷つけかねません。

✚ 子どもを比較しない



親が「世間並み」ばかりに目がいき、「早く！ きちんと！ しっかり！」しか言わなければ、子は「うるせえ！ めし！ 金！」しか言わなくなります。（悪い意味での）コンプレックスを植え付けるだけです。

✚ 過信に気をつける



「うちの子に限って」は危険な考え方。自分の子に落ち度があると自分が恥ずかしいという心理の裏返しです。この親のエゴを子どもは見抜きます。同様に子どものご機嫌取りも見抜かれます。

『子どもが思春期のときは、親は逃げちゃいけないそうです。でも、立ち向かっていけません。居場所を変えず、そこに存在すること。そのときに“そこにいる”ということが必要です。』

山形県警察本部少年課
少年サポートセンターヤングテレホン



023(642)1777